



所蔵資料紹介 ～和本から～

古書の巻数

このコーナーでは、いけばなやお花に関する古い資料について取り上げてきましたが、今回は「巻数」に注目してみます。古書には、真ん中か左上寄りに『題簽(だいせん)』という短冊のような紙が貼ってあることが多いです。この題簽に本のタイトルと、シリーズやセットなら何番目か、ということが書いてあります。

巻号で一番一般的なものは「一・二・三・四・・・」ですが、古文書ではそれ以外の番号のつけ方もたくさんあります。例えば2冊セットの場合、「前・後」これはわかりやすいですね。では、「乾(けん)・坤(こん)」はどうでしょうか？乾坤は、天地、陰陽の意味です。3冊セットだと「上・中・下」とか「天・地・人」、「雪・月・花」など。4冊になると「花・鳥・風・月」や「甲(こう)・乙(おつ)・丙(へい)・丁(てい)」など。珍しい「元(げん)・亨(こう)・利(り)・貞(てい)」(易経で天の四徳を表す)は図書館で所蔵していて、館内に展示していますのでぜひ見に来てください。

5冊以上では、「仁(じん)・義(ぎ)・礼(れい)・智(ち)・信(しん)」(儒教思想の概念)、「礼(れい)・楽(がく)・射(しゃ)・御(ぎょ)・書(しょ)・数(すう)」(中国の周の時代の、君子が身につけるべき教養「六芸(りくげい)」)という6冊セットもあるようです。

昔の人は、巻数にも風流を取り入れたのですね。

展示資料(左上から):

- ・『立華百瓶圖(りっかひゃくへいず)』猪飼三左衛門編
- ・『挿花獨案内(そうかひとりあんない)』菅谷昌萬編,明治15(1882)年
- ・『挿花浜名之海(そうかはまのうみ)』川松齋保一鳥撰[天保5(1834)年]
- ・『職人尽歌合(しょくにんづくしうたあわせ)』延享元(1744)年
- ・『庸軒流花粧玉手箱(ようけんりゅうかしょうたまたまてばこ)』
- ・『東山殿花傳拔書(ひがしやまどのかでんぬきがき)』

参考資料:

- ・『図書館のための和漢古書目録法入門』伊藤洪二著,樹林房,2019年
- ・『大辞泉』松村明監修,小学館,1995年



学生からのおすすめ図書の紹介 ～幼児保育学科(1年生)編①～

幼児保育学科・鶴川先生が担当された授業の課題として、幼保1年生のみなさんに書いていただいたおすすめ図書・絵本の紹介文を掲載します。掲載にあたり鶴川先生から一言いただきました。

—絵本に親しむ—

将来保育者を目指す人には、ぜひ絵本に親しんで欲しいと願っています。絵本は、すてきな言葉で物語がひろがっていきます。それは生まれたての乳児から私たちおとなの心にまで響く言葉です。絵本の世界は自由です。絵本を見たり、読んだりすることで心が潤っていきます。幼児保育学科では、私の好きな絵本(図書)を紹介することで絵本に親しむ機会を日常の中にぜひ作って欲しいと思い、授業に絵本紹介を入れています。

鶴川先生、1年生のみなさん、ありがとうございました。図書館には絵本も沢山あります。ぜひ日頃から絵本に親しんでくださいね。



いとうひろし/作・絵
『おててはびかびか』
(12月末に入る予定です)

ぼくは外から帰ってきたら手を洗わないといけなのは分かっているけど、その手は一日の思い出の跡がたくさん残っていて、それを心にしまいながら手を洗っていました。

私は保育士になった時、単に手を洗いなさい。というのではなく、「ぼく」のように思い出して心にしまいながら手を洗うことを子どもたちに伝えたいです。

(内田羽乃)



にしはらみのり/作・絵『いもむしれっしゃ』
(12月末に入る予定です)

沢山の虫達の生活の姿や遊び、仕事をする姿を見ることが出来る楽しい絵本です。絵本の所々に人間が使う軍手やスコップがあり、人間の生活している中に虫達の生活が身近に感じられ、どんな虫が私たちの近くに住んでいるのかなと絵本を読み終えたら探したくなります。いもむしれっしゃが大きな木に登るシーンでは「頑張れ」と応援したくなったり、大きなクモに食べられそうになるシーンはハラハラドキドキで、自分もいもむしれっしゃに乗って一緒に旅をしている気分になれます。(沢本瑞季)



スーザン・バーレイさく・え
『わすれられないおくりもの』
(請求記号：ワ/登録番号：00056798)

この絵本の登場人物「アナグマ」の死を通して愛情や友情、知恵を引き継いでいくことの大切さや、それぞれの生き方までを考えさせてくれるような絵本です。登場する動物たちの心の美しさをとても感じられ、感動しました。子どもたちには少し難しいと思うけれど、いのちの尊さや、周りの人たちを思いやることの大切さに気付くきっかけとなる一冊だと思います。(城本結衣)